

第 66 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

■開催日時

2020 年 10 月 29 日(木)16:00～

■開催場所

東京都品川区上大崎 3-1-1 USEN 本社

本社ミーティングルームをベースとして、委員および USEN 側の一部がテレビ会議形式で出席。

■出席者

湯川 れい子 委員長

富澤 一誠 委員

品田 英雄 委員

和合 治久 委員

長谷川 演 委員

■局側出席者

代表取締役社長 田村 公正

取締役副社長 大田 安彦

コンテンツプロデュース統括部長 山下 光儀

コンテンツプロデュース統括部編成部長 松本 茂雄

コンテンツプロデュース統括部制作部長 村田 徹

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課長 小島 万奈

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 三浦 祐司

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 河合 芳樹

【番組審議会事務局:森角、林、大園】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1)第 56 期通期経営成績について

売上高は、店舗サービスは下期にコロナ影響受けるも、上期の増税前需要等で上振れ増収し、エネルギーは獲得未達、コロナでの施設稼働減を受け微減収した。営業利益/経常利益は、販管費コントロールにより前期を大きく上振れて増益した。当期純利益は、前期に一時的な特別損失計上があったため大幅増益した。

(2)第 57 期活動方針について

「お店の未来を創造する」というビジョンの下、57 期は①事業活動を質量共にコロナ以前への水準に回帰させる、②店舗の IT 変革を推進する、③新たな時代のマーケティング手法を確立させる、の 3 つを活動方針とする。

(3)次世代通信サービス=IoT PLATFORM サービスについて

IoT で店舗経営をスマート化するワンストップ・ソリューションとして、U AIR、U MUSIC、U EYE の 3 サービスを展開する。

(4)追悼番組の放送について

10 月 7 日～10 月 30 日まで、10 月 6 日に逝去されたエドワード・ヴァン・ヘイレン氏に追悼の念を表した「エディ・ヴァン・ヘイレン 追悼特別番組」を放送した。また、10 月 13 日～10 月 30 日まで、10 月 7 日に逝去された筒美京平氏に追悼の念を表した「筒美京平 追悼特別番組」を放送した。

(5)『USEN magazine』の発行について

会報誌を従来の『With Music』から『USEN magazine』に変更し、2020 年 9 月、会報誌『USEN magazine Vol.00(2020 年 10～3 月号)』を発行。業務店/個人宅のお客様にお届けした。

2. 審議課題

「既存番組」+「時間帯」+「演出」

3. 【対象番組】

■I-18 ネオ・サーフ・ミュージック

■I-20 Guitar Compilation

4. 審議

【放送局】

第 57 期は「既存番組」+「時間帯」+「演出」を審議テーマとする。今回は朝帯での利用を想定し、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」、「I-20 Guitar Compilation」の 2 番組を審議頂きたい。

【審議委員】

まずは、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」からご意見を頂戴する。

【審議委員】

サーフ・ミュージックは時代と共に変化している。サーフィン文化自体は次第に泥臭くなっているが、今のサーフ・ミュージックは現代的でお洒落な曲が沢山有り、集めて聴くと非常に爽やかで、やはり海や夏を彷彿とさせ、聴くと少し元気になる感じがした。時間帯で言うと、昼下がりや夕暮れ時にも合うと思うが、朝に向いているというのも納得出来た。私は想定業種の小売店やカフェで働いたことが有るのだが、行列が出来るような店は別として午前中の開店間もないお客様がまだ少ない時間帯、店には寒々しい雰囲気漂っていた。実際に聴く前は、朝の波を待っているという意味合いで朝帯での利用を想定しているのかと思っていたが、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」を流すとその寒々しい雰囲気が払拭されるだろうと感じた。つまり、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」は寂しくならない音楽であり、それは私にとって発見で共感を抱いた。しかし、中でも BPM が高い曲が流れると、店ががらんとしているのに BGM が賑やかなのが不釣り合いで滑った感じがするので、却って寂しさを感じる。お客様が増えると接客で忙しくなるので BGM は気にならないが、お客様が少ない時は BGM が気になるので落ち着いた曲の方が良い。

【審議委員】

「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」の「ネオ」とはどのような意図で付けているのか。

【放送局】

「ネオ」自体が新しい、次のといった意味だと思うが、新しい形のサーフ・ミュージックという意味で「ネオ・サーフ・ミュージック」という用語が 2000 年代頃に出て来た。サーフ・ミュージックの変遷としては、ザ・ビーチ・ボーイズに代表されるサーフィン&ホットロッドに始まり、90年代になるとロック、スケート文化や西海岸のスカの要素も取り込み、今の2000年代はシンガーソングライター、グルーヴィーで黒人音楽の要素もオーガニックさも有るサーフ・ミュージックという意味で「ネオ・サーフ・ミュージック」という言葉が世界的に生まれたと認識している。

【審議委員】

時間帯を意識しながら、メロディやリズムから演出ワードとして挙げられている爽やかさ、ナチュラルさが感じられるか評価した。全体的には、美しい海や夕暮れの空といった自然を思い出させてくれ、1日の疲れを癒してくれる効果が有り、不自然さは無かった。リズムとテンポが非常に軽快で、心が弾むようで開放感がとても感じられた。そして、沈んだ気持ちを払拭させて気持ちを高揚させる作用も有るだろう。したがって、爽やかさ、ナチュラルさは確かに感じる事が出来た。また、今回は朝帯での利用を想定して評価するという事だったが、どの時間帯にも適していると感じた。アコースティック・ギターの演奏を昼間の、例えば仕事の合間に聴けば、一度リラックスすることで午後の仕事に集中して取り組む事も出来るので良いと思う。音楽療法的に言うと 1/f ゆらぎや倍音も出るので眠くなる作用も有るが、昼間だけでなく夕方仕事終わりの疲れた時に聴くのもリラックス出来て良いだろう。ただ、想定業種の小売(雑貨店、アパレル)、飲食(カフェ)に関しては、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」のようなロックンロール調の音楽は場所を選ぶと感じた。

【審議委員】

先日、日本海沿いを長時間車で移動する事が有り、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」はぴったり合うだろうと思い、その道中に仕事仲間と一緒に聴いた。丁度朝帯で、仕事仲間と一緒にとは言え休みの日の気分聴いていたのだが非常に合っていて、逆に平日の忙しい朝には合わないだろうと感じた。密閉された空間で聴いたので普通の BGM として聴くとは雰囲気が変わるが、全体として非常にまとまっていて、雰囲気が良くて聴いていて落ち着いたが、日本海にはあまり合わなかった。季節柄も有るかもしれないが、思っていた程は夏の海のイメージではなく、クールさと爽やかさのバランスが取れていて格好良かった。個々の楽曲についても、仲間内で盛り上がる事が出来たので非常に良かった。他には、何処で流れていたら良いかという話でも盛り上がった。想定業種にも挙げられている小売(雑貨店、アパレル)、飲食(カフェ)で言うと落ち着いたカフェや大人っぽいカフェではなく、カジュアルで客層が若いカフェやテラスの有るカフェにぴったり合うだろうという話になったのと同時に、美容室が一番合うのではないかという話になった。

先程「ネオ・サーフ・ミュージック」という言葉について説明が有ったが、「ネオ」という言葉自体がもう古く感じる。「ネオ・サーフ・ミュージック」が用語として成り立っているのであれば仕方が無いが、番組名だけ見ると突飛な内容の BGM が流れると勘違いされて利用されないのではないかと。

他の審議委員も言っていたが、朝だけでなく夕方に聴いても非常に合っていたので、一般的な BGM としては非常に完成度が高いと思う。

【放送局】

ドライブ中に聴いて頂いたという事だが、会話の邪魔にはならなかっただろうか。

【審議委員】

「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」は英語のヴォーカル入りの番組なので邪魔になると言えば邪魔になるだろうが、寧ろ今回はこの番組が会話の中心になっていた。もう一方の「I-20 Guitar Compilation」はインストゥルメンタルの番組なので、こちらの方がドライブ中のBGMとしては評価が高かった。

【審議委員】

BGM の評価が難しいが、大事なのはお客様だ。例えば店のオーナーからの要望に合わせて選曲をする際、何が必要かと言うと「基準」だろう。今回で言うと、朝帯に合わせて演出ワードを「爽やか、ナチュラル」にしているが、何を「爽やか、ナチュラル」と感じるかは人によって違うと思う。この番組はディレクターが「爽やか、ナチュラル」という基準に基づいて選曲しているので、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」はディレクターの中では既に完成した番組だろうし、私が聴いても基準に沿った非常に良く出来たBGMだと思う。他の人が選曲したら、また違う内容になるだろう。

普段、個人が自分で普通に音楽を聴く場合は、自分の好みというはっきりした基準があるが、BGMの場合ははっきりした基準が無いので、自信をもって良いとするかは、はっきり言って分からない。「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」も今朝は朝帯に合うと感じたが、明日の朝も合うかどうかは分からない。

【放送局】

仰る通り、お客様の要望ありきでそれにどれだけマッチした番組をご提案出来るかというのが我々の課題だ。店のオーナーや業態によって朝帯の「爽やか、ナチュラル」が様々というのは十分理解しているつもりだが、今回の審議では我々が朝帯にご提案する番組として「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」は相応しいのかという点についてご意見を頂きたい。

【審議委員】

どれだけのお客様にご提案して、その中からどれだけのお客様が採用したかというのが、自ずと答えになると思う。先程も言ったが、一番大事なのは基準だ。まずは基準をきっちり議論した方が良い。そうしないと選曲の仕様が無いと思う。

【放送局】

今回は、朝帯に提案する番組として「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」と「I-20 Guitar Compilation」の2番組を審議して頂いているが、USEN には他にも朝帯に提案する番組の候補は数多く有る。朝帯によく使われている実績が有る番組については我々も自信を持っているが、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」と「I-20 Guitar Compilation」は、我々は朝に合うと思っているが、実績が有る番組に比べると使われていない。この2番組も更に使われるようになるには、どのような基準を設けて選曲すれば良いかという事も含めてご意見を頂けると非常に有難い。

【審議委員】

「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」を選曲する際は、担当ディレクターが一人で選曲しているのか。

【放送局】

一人で選曲している。

【審議委員】

非常に大変だと思うが、どのような基準で選曲しているのか。

【放送局】

感覚的な部分が非常に大きく、具体的に挙げるのが難しい。

【審議委員】

ディレクターの個人の基準で良いと思う。

【放送局】

先程 BPM について指摘があったが、何か基準を設けているのだろうか。

【放送局】

BPM は必ずしもスロー～ミドルテンポでないと駄目とも、アップテンポは駄目ともしていない。テンポ感が有っても聴感上は実際のテンポよりも緩く感じる曲も有るので、その点も踏まえて選曲している。強いて挙げるなら、夏の浜辺の BGM として全体を通してお客様に心地良くなって頂けるというのを念頭に選曲している。

【審議委員】

その観点から見ると、今回の番組では基準に沿った選曲が出来ていると感じた。

選曲の際の基準が明確に無いと選曲が難しいだろうし、ディレクター個人に依存するのはディレクターにとって負担だろう。審議に入る前の報告事項で、新しい BGM サービス「U MUSIC」では AI で BGM を最適化するという話があったが、まず AI に選曲の基準を学習させた上で選曲させ、その後にディレクターの趣味を反映させて行く方が良いのではないだろうか。

【放送局】

USEN では昔から選曲に関してディレクター個人を重んじる文化が有り、現在も脈々と続いている。クラシックジャンルは選曲の際の基準が有るが、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」だけでなく他の番組もディレクターのセンスや裁量に任せられている部分が多いので行き過ぎた部分の是正は今後の検討課題としたい。

【審議委員】

番組名を見てどのようなお客様がこの番組を聴くのだろうと思った。番組名だけでは内容が分かり辛い。また今回は朝帯での利用を想定しているが、冬の雪が降っている日には聴かれにくいのではないだろうか。

また、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」は選曲時に「シーンに代表されるサーファー兼 SSW の音楽家たちを軸に」に留意しているとの事だが、果たしてそれが可能なのかも疑問に感じた。サーファー兼 SSW と言っても精々ジャック・ジョンソン位しか思い付かず、実際にサンプルを聴いてみるとジャック・ジョンソンの楽曲やジャック・ジョンソンに関連の有るアーティストの曲が多く選曲されていたので、この番組の選曲の難しさを感じた。それと同時に、思いがけないアーティス

トや知らないアーティストの楽曲も選曲されていたので、ディレクターがどのようにして選曲をしているのか興味を抱いた。非常に中身が濃く、良く出来た番組なので、もっと聴かれやすい名前を付けられると尚良い。

【放送局】

番組立ち上げ当初は、まずジャック・ジョンソンや彼に関連するアーティストから選曲した面が大きいですが、やはりそれだけでは番組として楽曲が足りないなので、それらの楽曲と一緒に流れることで相乗効果を生み良い番組になると思った楽曲を無作為に選んでいる。その際、アーティストの出身国や、その国が海沿いに面した国であるか等は意識せず、音楽的に似ている楽曲を選んでいる。

【放送局】

放送楽曲数はどれ位か。

【放送局】

500 曲程度だ。

【審議委員】

番組は一度選曲したら、楽曲を変更したり追加したりはしないのか。

【放送局】

新譜を中心に番組に合いそうな楽曲を都度追加している。また、ある程度曲数が増えた段階で、改めて全曲聴いてBGMとしてコンセプトや魅力が薄まっていないか確認し、必要に応じて楽曲を省いている。

【審議委員】

なるほど。お客様がどのようにこの番組を選ぶかという疑問は残るが、先程も言ったように非常に中身が濃く、勉強になる番組だった。

【放送局】

お客様がどのようにこの番組を選ぶかという点に関しては課題とさせて頂く。

【審議委員】

「I-20 Guitar Compilation」は、穏やかなギターソロの曲が番組に出来る程集まった事に感心し、それぞれの曲の良さも感じた。ギターは「小さなオーケストラ」と言われる程多彩な楽器で、「I-20 Guitar Compilation」でも良い曲が沢山選曲されていて、リズムがある楽曲やカバー曲が流れると、温かい気持ちになれるというのも改めて思ったが、一曲一曲の与える印象が大きく違った。一人で仕事をする時のように何かしている時に流れていると気にならない程度の違いだが、想定業種の小売(ドラッグ)、医療(クリニック)では基本的に喋らず静かなので音楽が耳に入ってくる。番組全体としては聴いていると穏やかな気持ちになるが、例えばマイナー調の曲等、曲によっては寂しい気持ちになってしまうので、体調が悪い患者の立場で考えるともう少し明るい気持ちになる選曲の方が良いと思った。

「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」にも共通して言える事だが、お客様がどのような場所でどのようにして流すか、選曲側

がどのような気持ちになって欲しくて選曲をしているかというのはディレクター間で共有した方が良いと思う。

【審議委員】

「スロー～ミドルテンポのアコースティック・ギターサウンドで穏やかで癒しを感じる空間を演出」というコンセプトで選曲しているとの事なので、そのコンセプトの中で評価した。

全体的にはコンセプト通りに穏やかさや癒しを感じる事が出来たが、周波数が低い暗い気持ちになってしまう曲が続いて流れる事もあり、部分的にバランスが取れていないようにも感じた。身体に痛みが有って病院に居たり、これからどのような治療を受けるか不安を抱いたりしている患者にとって、「I-20 Guitar Compilation」のような落ち着いた雰囲気番組は心と身体の痛みを和らげる働きが期待できるだろうし、今のコロナ禍では不安が増大されているので尚更良いと思われる。また、そのような雰囲気を醸し出す音楽を聴くと副交感神経が優位になり、血流・血行が穏やかになる為、治療を受けやすくなることも期待できる。病院には患者だけでなく付き添いの人も居るのでターゲットを絞った選曲は難しいが、患者にとっては意味が有る番組だと感じた。

想定業種には含まれていないが、幼稚園を含め教育機関でも心を和ませるような曲が求められる事や、普段のストレスを解消する為にレストランやカフェに行く事も有るので、そのような場所も含めターゲットを広げても良いと思った。

検討課題として楽曲のテンポ感が挙げられている。副交感神経のスイッチを入れる場合に私はアダージョやアンダンテの楽曲を選ぶが、そのような観点では今のスロー～ミドルテンポで良いだろう。

また、今回は朝帯での利用が想定されているが、心を鎮めて何かに取り組む事が出来るという意味では評価されると思った。

【審議委員】

これまで参加した審議会で審議対象となった番組と比べると、「I-20 Guitar Compilation」は非常にまとまっている印象だ。他の番組はディレクターの個人的な趣味や自己主張が散りばめられていて、眠くなったり集中力が切れていたりする人をはっと気付かせる仕掛けが有った。それに対し、「I-20 Guitar Compilation」はギターのみで選曲されているからかも知れないが、特徴やテンポというよりは世界観に統一感が有り、自己主張しない BGM として聴いた時に心地良かった。個人の裁量で自由に選曲出来るという状況でも、自己主張をせず、頑張って要らない楽曲を全部外して、ディレクターが素直に好きな曲だけを選曲するという点に主眼を置いて作られた番組だと感じた。中には悲しい気持ちになる曲も選曲されているが、全体的には温かい気持ちになり、テンポ感もまとまっていた。

想定業種の小売(ドラッグ)、医療(クリニック)には合わないと思ったが、拘りの有る雑貨屋や物販店には合うと思った。また、私のカフェのスタッフ何人かに「I-20 Guitar Compilation」を BGM に選ぶか聞くと、殆どのスタッフは「Compilation」という言葉自体を知らなかった。

【審議委員】

私が行く医療関係の場所では歯医者以外音楽は流れていないので、想定業種を小売(ドラッグ)、医療(クリニック)としているのは疑問を感じた。「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」にも言える事だが、業種をしっかりと想定して逆算して選曲しないと評価が難しい。

その為、今回は「I-20 Guitar Compilation」を BGM としてではなくディレクターが選曲したラジオ番組として、1曲1曲吟味しながら聴いた。選曲の際、「エレキギターを使った楽曲、リズム入りの激しい楽曲、癒しが感じられない暗い印象の楽曲など、コンセプトに合わない楽曲は NG に。また、落ち着いた雰囲気での BGM 利用を想定しているため、耳に残り

やすい J-POP のカバーも NG。」としているので、地味な番組にならざるを得ないだろう。その中でも、ディレクターは上質な曲を丁寧に沢山選曲していると思う。

【審議委員】

小売(ドラッグ)、医療(クリニック)でお客様が爽やかに、穏やかにリラックス出来るようにとアコースティック・ギターサウンドでまとめたのだと思うが、ディレクター自身はギターを弾くのだろうか。

【放送局】

今はあまり弾かないが、学生時代は熱心に弾いていた。

【審議委員】

アコースティック・ギター程、演奏者の技術力が如実に表れる楽器は無いので選曲が非常に難しいと思う。私はドラッグストアにはあまり行かないが医療関係の待合室で長時間待つ事は多いので、そのシチュエーションを想定しながらサンプルを聴いたのだが、待合室のような BGM に耳が行ってしまう場所では演奏の拙さが気になって辛いだろうと思った。飲食店等では会話の邪魔にもならず、穏やかにリラックスして問題なく聴ける良い番組だと思うが、じっくり聴くような番組ではないのではないか。

【放送局】

暗い印象の曲の選曲についてはどのように考えているのだろうか。

【放送局】

マイナー調の曲でも、暗さよりも癒し要素が有るという事に重きを置いて厳選して選曲している。

【審議委員】

そのように選曲しているのは感じたが、リズムが全く無い曲をクラシックの中からも選んでいる。リズムの有る曲が続いて流れた後にこのような曲が流れると、癒しよりも暗さを感じてしまう。癒しを感じる空間を演出するには、ある程度きちっとリズムを感じさせる曲をあるテンポで統一する方が良いかも知れない。

【放送局】

暗さと癒しでは雲泥の差だ。この番組だけではなく他の番組にも言える事だが、曲順も含めて BGM なので今後の検討課題としたい。

本日も非常に濃く貴重なご意見を頂いた。

「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」は番組名についてご指摘は有ったが、選曲は良いというご意見を頂いた。今回は朝帯での利用を想定しての審議だったが、どの時間帯でも合うというのは新たな発見であり、非常に印象に残った。また時間帯だけでなく、聴く人によってリラックスしたり、気持ちが高まったり様々な作用が有る、つまりオールタイムのオールラウンドミュージックであるとも思ったので、選曲の大変さをご指摘頂いた通りだが、更により良い番組にしていきたい。

「I-20 Guitar Compilation」は暗い印象の曲を取り除くのか、曲順に注意することで癒し要素を感じるようにするのか、改めて考えたい。想定業種についても、小売(ドラッグ)、医療(クリニック)とする以上、普通の BGM よりも耳に入るという点

を改めて認識して選曲をしていきたい。

今回、選曲の際の基準を設けるべきだというご意見を頂いたが、これは今回の 2 番組だけでなく全体に対するご意見だと認識している。BGM である以上、どのような曲でも選曲して良いという訳ではないので、各番組に対してある程度基準を設けて選曲していきたい。